

京急グループのCSR・その他

- 社会的責任に対する取り組み ●危機管理
- 京急グループにおける安全・安心なサービス ●環境
- 住民や自治体との取り組み ●新規事業の創出
- インバウンドへの取り組み ●PR活動 ●CS活動
- 株主・投資家への取り組み IR活動

社会的責任に対する取り組み

京急グループは、グループ全体が協力して社会的責任を果たし、豊かな都市生活の基盤づくりを通じて社会に貢献できるよう、CSR推進体制の充実に注力しています。

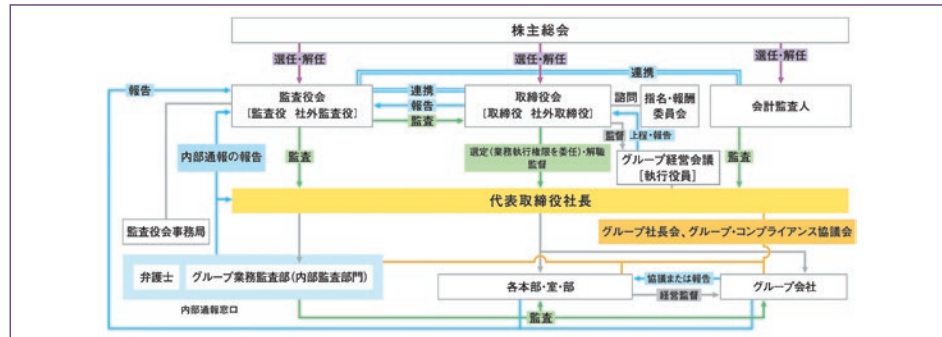
コーポレートガバナンス

■コーポレートガバナンスの基本的な考え方

京急グループは、ライフラインを担う企業集団として、すべての事業において安全の徹底を図るとともに、お客さま、株主・投資家、地域・社会・環境、取引先および従業員などのステークホルダーと適切な協働を図り、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、「グループ理念」および「長期ビジョン」に基づき、コーポレートガバナンスの継続的な充実に取り組みます。京急電鉄は、現状において、適時かつ適切に取締役会等の運営を行い、迅速かつ適切な意思決定ができていると考え、従前どおり監査役制度を採用しています。取締役会は、社外取締役3名を含む13名で構成され、法令・定款で定められた事項や経営上の重要事項の決議および報告ならびに職務執行の監督を行っています。また、取締役の人事・報酬および後継者育成計画の決定に関する取締役会の透明性、客観性と説明責任を強化するため、取締役会の諮問機関として、半数以上が独立社外取締役で構成される指名・報酬委員会を設置しています。さらに、取締役会における経営の監督機能の強化および業務執行部門に求められる業務執行機能の強化を行うことを目的として、執行役員制度を導入しており、執行役員で構成され、取締役会長および常勤監査役が出席するグループ経営会議においては、経営計画等の重要事項の策定や、事業計画等を決定しています。このほか、監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成され、各監査役の監査状況の報告および監査意見の形成

を行っています。各監査役は、経営状況の監査や取締役の職務執行の適法性などの監査を行うほか、取締役会やグループ経営会議等の重要な会議に出席し、必要に応じて意見陳述を行っています。また、代表取締役と監査役との間で職務執行や監査に関して定期的に会合を行い、会社が対処すべき課題、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見交換を行っています。さらに、監査役は、会計監査人と定期的に会合をもつなど、緊密な連携を保ちながら、積極的に意見および情報を交換しています。なお、取締役の事業年度の経営責任を明確にするとともに、経営環境の変化に迅速に対応した経営体制を構築することができるようにするため、取締役の任期は1年としています。京急電鉄では、公共交通機関を中心に事業を行っている社会的責任を踏まえ、短期的な業績に限らず、事業継続の大前提となるサービス・商品の安全確保など中長期にわたる企業価値向上を実現するため、取締役会においては、京急グループの事業や戦略に精通する取締役を中心とした体制をとっています。また、社外役員が独立した立場から経営に参画することで、さらに透明性、客観性の高いコーポレートガバナンス体制を推進できることから、上記に記載した体制を採用しています。グループ全体においては、グループ会社社長が出席するグループ社長会を定期的に開催し、グループ全体における経営方針の徹底と経営情報の共有化を図っています。

京急グループ コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

■コンプライアンスの基本的な考え方

京急グループは、法令や社会規範に則り、京急グループを取り巻くすべての皆さまからの信頼に応え、企業市民として期待される社会的責任を果たすために、「京急グループ・コンプライアンス指針」、「京急グループ・役員および従業員行動基準」を定めています。

京急グループ・コンプライアンス指針

- ①お客さまに対して
お客さまの豊かな生活のために、安全で、満足を得られるサービス・商品の提供に努めます。
- ②株主・投資家に対して
投資に対する期待に応えるために、長期的・安定的な企業価値の増大を目指した事業活動と、適時・適切な会社情報の開示に努めます。
- ③地域・社会・環境に対して
よりよい社会の形成に貢献するために、地域社会との協調・連携に努めるとともに、地球環境を守るために、環境への負荷軽減に努めます。
- ④取引先に対して
相互の繁栄のために、合理的な商慣習に則った、公正・透明な取引に努めます。
- ⑤従業員に対して
従業員が安心して意欲的に働くことができるために、個人の尊重と、良好な職場環境の維持・向上に努めます。

京急グループ・役員および従業員行動基準

- ①お客さまに対して
(1) 私たちは、常にお客さまの安全を最優先に考え、サービスや商品を提供します。
(2) 私たちは、お客さまのニーズを把握するとともに、お客さまの声を活かし、満足度の高いサービスや商品の提供に努めます。
- ②株主・投資家に対して
(1) 私たちは、株主・投資家などから正しい評価を得られるよう、適時・適切な企業情報の開示に努めます。
(2) 私たちは、業務上知りえた内部情報を利用して疑惑や不信を招く株式の売買等を行いません。
- ③地域に対して
(1) 私たちは、地域に密着した企業グループの一員であることを自覚し、地域の発展のために活動します。
(2) 私たちは、明るく住みやすい社会となることを目指して、地域社会への貢献に努めます。
- ④社会に対して
(1) 私たちは、市民社会の秩序や安全を脅かす反社会的勢力との関係を断ち、毅然とした態度で対応します。
(2) 私たちは、社会的に許されない政治献金や寄付、社会から誤解や不信を抱かれるような接待や贈答を行わず、また、受けません。
- ⑤環境に対して
(1) 私たちは、地球環境を守る担い手として、環境への負荷軽減、資源の有効活用に努めます。
(2) 私たちは、環境の保全に配慮し、自然環境と調和した事業活動に努めます。
- ⑥取引先に対して
(1) 私たちは、不当な取引制限や、不正な方法による取引は行いません。
(2) 私たちは、取引先との間で公正な取引関係を築き、会社と取引先の双方にとって最適な取引を行うよう努めます。
- ⑦会社に対して
(1) 私たちは、会社の財産(知的財産、企業ブランドを含む。)を大切に扱い、その価値の維持・増大に努めます。
(2) 私たちは、会社の重要情報およびお客さまや他社の機密情報を厳重に取り扱い、漏洩の防止に努めます。
- ⑧役員・従業員相互の関係
(1) 私たちは、職場における事故の防止に全力を尽くし、安全で衛生的な職場環境の整備に努めます。
(2) 私たちは、個人の人格と人権を尊重し、国籍・性別・宗教などによる差別やセクシュアルハラスメントなどの嫌がらせのない、明るく活気のある職場づくりに努めます。

■コンプライアンスに関する教育・研修

京急グループの全従業員が、コンプライアンスに対する理解を深め、一人ひとりが正しく行動できるよう、新入社員から管理・監督職まで階層別に研修を実施しています。また、2018年度からは、職場ごとに「コンプライアンス向上のための活動計画」を策定し、活動計画に沿った取り組みを実施しております。さらに日々の業務を遂行するうえで、どのようなことに注意して行動すべきかをまとめた「京急グループ・コンプライアンスブック」の活用や時事問題を取りあげた「京急グループ・コンプライアンス便り」を毎月配布し、コンプライアンス意識の向上を図っているほか、「京急グループ・コンプライアンス指針」や「京急グループ・役員および従業員行動基準」をカードサイズに印刷した「コンプライアンスカード」を、グループのすべての役員および従業員に携行させ、常にその趣旨を意識し、行動できるようにしています。

■個人情報保護方針

京急グループは、個人情報保護に対する社会的要請に応えるべく、法令などを順守するとともに、個人情報保護に関する取り組み姿勢を明確にするため、プライバシーポリシーを定め、忠実に実行します。

※個人情報保護方針の全文は、京急電鉄WEBサイト(トップページ→プライバシーポリシー)をご覧ください。

■内部通報制度(コンプライアンス窓口)

京急グループでは、所属会社や雇用形態を問わず、すべての従業員が利用できるコンプライアンス窓口を社内と社外に設置し、コンプライアンス違反に関する通報を受け付けています。

また、「内部通報規程」を整備し、通報者の保護など公正かつ適正な窓口の運営を徹底しています。さらに、コンプライアンスカードに窓口の連絡先を記載するなど、グループの全従業員に周知し、窓口の実効性を確保することで、コンプライアンス違反情報を早期に察知し、違反を防ぐ体制を構築しています。

危機管理体制

■リスクマネジメントの基本的な考え方

公共交通機関を中心に事業を行う京急グループの社会的責任を踏まえ、サービス・商品の安全・安心を確保するため、京急グループ危機管理規程に基づき、平時から安全対策に積極的に取り組むとともに、万一の事故や災害などの発生に備え、各種対応方法を整備しています。また、危機発生時に、グループ全体の情報を集約・共有することにより、危機のすみやかな収拾と再発防止を図っています。

さらに、グループ全体のリスク情報を管理するため、各部門は当社事業に係るリスク情報を把握するとともに、職制および業務分掌規程に基づき、所管する各グループ会社のリスク情報を把握し、損失の最小化を図るための対策を講じています。

このほかグループ業務監査部は、各部門および各グループ会社のリスク管理体制についての監査を行っています。各部門が把握するリスク情報については、グループ全体のリスク情報として集約し、グループ・コンプライアンス協議会において情報の共有化を図っています。

||||| 危機管理

京急グループでは、自然災害、テロ攻撃などの緊急事態に際し、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、事業の継続および、早期復旧を可能とするため、危機管理体制の強化に取り組んでいます。

■危機管理委員会の設置

公共交通機関を中心に事業を行う京急グループの社会的な責任を踏まえ、サービス・商品の安全・安心を確保するため、グループ全体の危機に対応する事項を検討・立案する「危機管理委員会」を設置し、平時から安全対策などに積極的に取り組んでいます。また、京急電鉄の各本部長、部長およびグループ会社社長は「危機管理統括責任者」または「危機管理責任者」として、危機管理委員会の方針および指示に従い、自部署・自社における対応策の立案・実行・見直しを行っています。

■危機対策総本部の設置

重大な事件、事故、不祥事、自然災害、疫病、テロの発生など、グループ全体での対応が必要な場合には、京急電鉄の社長もしくは危機管理委員会委員長を本部長とした「危機対策総本部」を設置し、迅速かつ正確な事実確認と情報公開を行うとともに、ステークホルダーの損害を最小限にとどめるための具体案を立案し、実行します。

■京急グループ全体での情報の集約・共有

危機のすみやかな収拾と未然防止のため、京急グループの緊急連絡網を整備し、一斉配信メールを活用するなど、京急グループ全体の情報の集約・共有を図っています。また、地震など大規模災害が発生した際に、グループ会社間が連携して対応していけるように、様々な訓練を行っています。

■自衛消防訓練の実施

京急電鉄本社ビルでは、消防法に基づく自衛消防訓練を毎年春・秋の年2回実施しています。この訓練は、主に新入社員や新任者を対象に実施しており、通報・避難・消火などの基本的な訓練、応急手当訓練や煙体験などをとおして、万一の災害時にも落ち着いて行動できることを目指しています。



■京急グループ合同防災訓練

毎年防災週間に大規模地震の発生を想定し、訓練を行っています。2018年度は南海トラフ地震で被害が発生したとの想定で、BCP(事業継続計画)に基づき、京急電鉄本社ビル内に危機対策総本部を立ち上げ、従業員の安否確認、各事業部門の被害情報の集約、グループ会社への電車・バスの運行情報や主要施設の営業情報の伝達訓練などを行いました。



京急グループにおける安全・安心なサービス

京急グループの交通機関や施設を利用されるお客さまが、いつでも安心してご利用いただけるよう、積極的に「安全・安心」に取り組んでいます。

京急電鉄

【安全・安心輸送に関する取り組み】

輸送障害発生時に、事故および自然災害等による運転見合わせを告知するため、日本語、英語、中国語（簡）、韓国語の4か国語に対応した案内ポスターを全駅の改札口付近に設置しています。また、駅構内「災害時の緊急避難場所」案内図も同様に4か国語表記とし、近年増加する訪日外国人のお客さまに対しても安全・安心にご利用いただけるよう努めています。



輸送障害発生時の案内ポスター 「災害時の緊急避難場所」案内図

京浜急行バス

【安全・安心輸送に関する取り組み】

バス路線図に避難場所の明示

京浜急行バスでは、大きな地震が発生し、津波警報が発令された際に安全な場所へ避難する目安として、バス車内に掲出している運行系統図に、神奈川県、神奈川県内市町村および大田区発行の津波ハザードマップをもとにした浸水予想地域を緑青色に着色し、震災時避難場所、津波避難場所および津波避難ビルの名称と位置を掲載しています。



* 浸水予想地域は各自治体が最大クラスの津波を想定して公表したものを参考に掲載していますが、浸水予想地域の範囲外でも津波の浸水が発生する場合があります。浸水の深さは場所によって異なりますので、あくまでも目安としてご覧ください。

実車を使用した津波避難訓練の実施

バスの運行エリアである葉山町や鎌倉市で、津波警報が発令された場合を想定して、実車を使用した津波避難訓練を実施。車いすや高齢者の方など避難に助けが必要な乗客役も設定し、乗客に協力を呼びかけるなど、より迅速に避難できるような対応を行っています。



葉山町での津波避難訓練の様子

京急ストア【食の安全】

社内に食品安全委員会を設置し、食の安全・安心について全社的な対応を図っています。また、各店舗においては、従業員に対して定期的な腸内細菌検査の実施や食品衛生に関する教育を行っているほか、外部機関に委託し、商品の細菌検査を実施するなど、食の安全管理に細心の注意を払っています。



環境

京急グループは、自ら定める「京急グループ 環境基本方針」にのっとり、全社員が日ごろの事業活動や社会貢献活動を通して、環境保全と環境負荷の低減や、省エネルギーに努めています。

京急グループ 環境基本方針

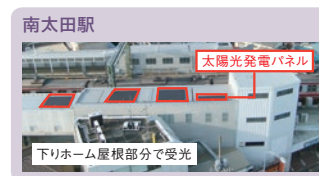
私たちは、あらゆる事業活動や社会貢献活動を通じて、地球環境の保全と環境負荷の低減に努め、持続的発展が可能な社会の形成に貢献します。

行動指針

- 私たちは、環境にやさしい公共交通機関を中心に、さらなる利便性の向上と魅力ある沿線価値の創造に努めます。
- 私たちは、資源やエネルギーの有効活用と、廃棄物の削減・再利用・再資源化への取り組みを通じ、環境負荷の低減に努めます。
- 私たちは、次世代を担う子ども達に、より良い沿線環境を引き継ぐため、沿線の豊かな自然との共生・保全に努めます。
- 私たちは、あらゆるステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切に、地域社会との協調・連携に努めます。
- 私たちは、環境に関する法令等を正しく理解・順守するとともに、啓発・教育活動を通じて、社員一人ひとりの環境意識の向上に努めます。

鉄道施設での薄膜太陽光発電システムの導入

神奈川県の補助金事業として南太田駅と金沢文庫駅に薄膜太陽光設備を導入しました。駅前街路灯や駅構内照明に活用しています。



南太田駅

太陽光発電パネル
下りホーム屋根部分で受光



金沢文庫駅

駅構内コンコースの照明に利用

環境に優しいバスの導入（川崎鶴見臨港バス、京浜急行バス）

川崎鶴見臨港バスは、電気バスの導入、さらに、従来型ディーゼル車に比べ排出ガスを削減し、燃料消費を抑制できるハイブリッドバスを導入。低公害車への車両代替を積極的に実施し、有害物質排出の抑制に力を入れています。また、京浜急行バスは、2019年2月25日に走行時にCO₂などの環境負荷物質を一切排出しない、燃料電池バス「SORA」を民間のバス会社では初めて導入。さらに、排出ガス規制よりさらに厳しい規準をクリアした車両・燃料消費の少ない車両を導入し、環境負荷の低減に取り組んでいます。



LEDを採用した車両を導入

2012年3月以降に新造・更新を行った車両については、客室照明すべてにLEDを採用しています。従来の蛍光灯に比べ、照明の消費電力を約3割削減できるこれらの車両には、室内両端およびドア上にLED照明であることをお知らせする案内を掲示しています。また、2016年度以降、京急電鉄初となるLED前照灯（ヘッドライト）を導入。従来の新1000形から、さらに省エネ対策を推進しています。



■公共交通機関の利用促進

「ノルエコ」プロジェクト

鉄道・バスなどの公共交通機関は、エネルギー使用量が少なく地球温暖化の原因となるCO₂の排出量も少ない環境に優しい乗り物です。京急グループでは、公共交通機関で出かけることを推進する「ノルエコ」プロジェクトを進めています。2018年には、公共交通機関の利用をPRするために、ラッピング電車とラッピングバス（京浜急行バス 横浜路線 ※110系統）も運行しました。



■「“楽”ecoプロジェクト」を実施

京急百貨店では、お中元・お歳暮ギフトのご注文1個ごとの販売からお届けまでに発生するCO₂排出量に、横浜市が所有する水源林支援を行い認定された、整備を行った森林によるCO₂吸収量をあてるカーボンオフセット型の「“楽”ecoギフト」を販売しています。2018年度は、約5.5tのCO₂吸収量を充当しました。また、京急ストアでは「“楽”eco活動」の取り組みとして2010年10月から植林による環境支援活動を行っています。お客さまのレジ袋辞退1回につき京急ポイントカードの1ポイント相当を京急ストアが負担し、NPO法人環境リレーションズ研究所が運営する森林再生プロジェクトに寄付しています。現在までの累計で6,923本の木を植えることができました（2019年3月末現在の植林先は北海道天塩郡）。



■絶滅危惧種や固有種「三浦メダカ」の繁殖活動を支援

京急油壺マリンパークは、1970年に博物館相当施設に指定を受けて以来、社会教育施設として紹介展示に努めています。絶滅危惧種の繁殖活動を地域や学校とともにやっているほか、神奈川県に生息する絶滅危惧種のDNAについて東京大学と共同研究を実施。また、職員が地元小学校へ出向き、固有種である三浦メダカの飼育方法のアドバイスや希少な生物の繁殖と種の保存について考える「三浦メダカの里親制度」を行っています。



■EV（電気自動車）の推進

自治体としてEVの普及促進を図っている横須賀市の施策に賛同し、横須賀市内にある京急グループ施設にEV用の充電器を設置しています。設置場所は、観音崎京急ホテル、同ホテル内の温浴施設SPASSO、京急ストアFHaB湘南池上店、京急ストアハイランド店の各駐車場で、営業時間内に無料でご利用いただけます。



※将来的に有料化される場合もあります。

■「小網代の森」の自然環境保全に協力

三浦市の「小網代の森」は自然のままの水系が残され、希少種を含む貴重な生態系が形成されている、地域のかげがえのない財産です。京急電鉄は、神奈川県による「小網代近郊緑地保全区域」の指定に同意し、所有する約10haを自主保存するとともに、約2haを神奈川県に寄付しました。また2014年5月には森林内を散策するための木道の一部整備し神奈川県に寄付、2018年5月には常設トイレの設置に伴い神奈川県に敷地を貸与するなど、小網代の森の自然環境保全に協力しています。



||||| 住民や自治体との取り組み

人々の生活に密着したさまざまな事業を行っている京急グループだからこそ、地域に根差した企業集団として、住民の皆さまや自治体と連携した地域貢献に努めています。

■神奈川県とSDGs連携協定を締結

2019年1月22日に神奈川県と「SDGs推進に係る連携と協力に関する協定」を締結しました。神奈川県と緊密な相互連携と協働によりSDGs活動を推進することで、地域のニーズに迅速かつ適切に対応し、さまざまな課題解決に向けて努めています。

その取り組みの一環として、海洋プラスチックごみの削減に向け、オリジナルエコバッグの配布や京急グループ全社にて生分解性ストローの導入を実施しています。また、夏の海水浴シーズン前には、京急沿線各所の海岸でビーチクリーン活動に取り組みました。



■「ノルエコけいきゅん」で横浜市の環境保全活動をサポート

京急グループCSR活動の一環である「ノルエコ」を多くの方にPRするため、京急電鉄マスコットキャラクターのけいきゅんが環境をイメージした緑色になり、「ノルエコけいきゅん」として登場しました。この「ノルエコけいきゅんぬいぐるみ」を期間・数量限定で販売し、2018年8月に、売上全額を横浜市環境保全基金へ寄付し、横浜市の環境保全活動をサポートしました。



■長野県と生物多様性保全パートナーシップ協定

京急電鉄と長野京急カントリークラブは、長野県と「生物多様性保全パートナーシップ協定」を締結しています。長野京急カントリークラブは、環境に優しいゴルフ場経営を目指しており、地域で事業を営む企業の責務として長野県の豊かな自然環境を未来の世代につなぐ活動に参加することに賛同。長野京急カントリークラブの売上金の一部を環境保全のため長野県へ寄付を行っており、寄付金は県内の小中学校への環境学習の支援に活用されています。



■駅長が社会福祉施設を訪問

横須賀中央駅、京急久里浜駅、三浦海岸駅および品川駅の4駅長が、2019年5月29日に、京急沿線の社会福祉施設「希望のひかり」を訪問しました。当日は、パーパークラフト作成や、子どもたちと手づくりしたおやつを食べながらの歓談、京急の制服を着ての記念撮影およびプレゼント贈呈などを実施し、子どもたちと思い出に残る楽しいひとときを過ごしました。



■各地とお客さまをつなぐフェアを開催

都心から羽田空港への主要アクセスを担う京急電鉄は、羽田空港でつながる各地とお客さまをつなぎ、各地へのさらなる誘客を図るフェアを、京急グループ全体で開催しています。

京急あきたフェア2018

JA全農あきた、秋田県と共催にて、京急グループ施設などにおいて、イベントや物産展などの開催、秋田県産あきたこまち「あきたecoらいす」の販売を行いました。また、京急創立120周年と京急あきたフェア10周年を記念し、「京急オリジナル日本酒をつくろう!!プロジェクト」を実施。京急グループ社員が原材料である酒米の田植えから稲刈り、酒の仕込み作業を体験し造った、記念酒「京秋の恵」をはじめ、京急オリジナルパッケージの米菓「淡雪ふわり」やお客さまからのご要望が多かった「あきたecoらいすの無洗米2kg・5kg」などの記念商品を販売しました。期間中は、沿線の京急グループ施設においてさまざまな企画を通して秋田が紹介され、京急線の羽田アクセスの想起にとどまらず、日本の伝統的な食文化を広く伝える機会となりました。



■羽田空港国内線ターミナル駅開業20周年記念「京急ラッピング車両」

2018年11月に、羽田空港国内線ターミナル駅は、開業20周年を迎えました。これを記念し、全国各地で、京急電鉄の赤と白のカラーリングを採用した全面ラッピング車両の運行を実施し、京急空港線のPRを積極的に展開しています。



大阪モノレール



高松琴平電気鉄道



広島電鉄



長崎電気軌道



鹿児島市電



沖縄都市モノレール

||||| 新規事業の創出

時代の変化に応じたビジネスモデルの変革を目指し、異業種企業やスタートアップ企業とのオープンイノベーションによる新規事業・価値の創出を積極的に図っています。

■「モビリティを軸とした豊かなライフスタイルの創出」をビジョンに掲げ、アクセラレータープログラムを実施

オープンイノベーション施策の一環として、スタートアップ企業との事業共創により新規事業・価値の創出を目指す「京急アクセラレータープログラム」を2017年より実施しています。2018年度に開始した第2期プログラムでは、「モビリティを軸とした豊かなライフスタイルの創出」をビジョンとして掲げ、102社の応募の中から、「人の移動」を起点に新たなライフスタイルを生み出していく5社を採択しました。

最新のビジネスモデルやテクノロジーを展開するスタートアップ企業と、豊富な事業基盤を持つ京急グループがタッグを組み、鉄道を軸とした移動インフラに加え、次世代モビリティや各種サービスにより地域をシームレスにつなげ、沿線地域の魅力を向上させる「地域連携型 MaaS」を目指していきます。



「京急アクセラレータープログラム」ロゴ



成果や進捗を発表する「デモデイ」を毎年開催

■スタートアップ企業との連携を強化

国内外のスタートアップ企業と連携する機会の拡大を目指し、京急電鉄初となるベンチャーキャピタルファンドへの出資を行いました。また、既存事業とのシナジーが見込める事業を展開するスタートアップ企業との資本業務提携を検討するなど、沿線のライフスタイルを豊かにするために、今後も積極的にオープンイノベーションによる新規事業と価値の創造を図っていきます。

■品川駅高輪口エリアにオープンイノベーション拠点「AND ON SHINAGAWA」をオープン

スタートアップ企業や大企業などさまざまなプレイヤーの事業共創を加速し、新しい価値を継続的に生み出し続ける「イノベーション・エコシステム」の形成を目指し、コワーキングオフィスやイベントスペースの機能を持つオープンイノベーション拠点「AND ON SHINAGAWA (アンド オン シナガワ)」を品川駅高輪口エリアに開設しました。人々の生活を大きく変えていくことが期待されるモビリティ変革・MaaS領域に注目し、次世代の交通サービスや、そこから生み出される新しいライフスタイル・サービスの創出に特化。ベンチャー・スタートアップ企業から大企業まで、ビジョンでつながる良質なコミュニティを形成していきます。



オープンイノベーション拠点「AND ON SHINAGAWA」

インバウンドへの取り組み

激増する訪日外国人旅行者への対応、さらに2020年のオリンピック・パラリンピックの開催に向けて、多言語案内やインバウンド商品の拡充など、インバウンド施策の強化を進めています。

■日本の観光・物産博2019ブース出展

2019年6月、台湾・台北駅構内コンコースで開催された「日本の観光・物産博2019」に日本旅行と共同でブースを出展し、京急電鉄として羽田から都心アクセスのPRおよび三浦半島のPRを実施しました。また「みさきまぐろきっぱ」と「葉山女子旅きっぱ」の2種類の企画乗車券を海外で発売し、訴求に努めました。今後も訪日リピーターの多い台湾に向けたPRを強化していきます。



■鉄道向け多機能翻訳アプリを全駅に導入

京急電鉄では、駅係員による外国人のお客さまへの多言語案内をサポートする対話型の音声翻訳クラウドサービス「駅コンシェル」を2018年4月から試験導入、7月には京急線全駅（泉岳寺駅を除く）に本格導入しています。音声入力した内容を相手の言語に翻訳して対話型の画面に文章と音声で表示する機能、よく使うフレーズを登録しておくことで必要に応じてすばやく文章と音声でご案内できる機能、タッチパネルを用いたお忘れ物確認機能など、鉄道分野における具体的なニーズに対応するさまざまな機能を搭載しています。



対話型の音声翻訳

■京急ツーリストインフォメーションセンター（京急TIC）

羽田空港国際線ターミナル到着ロビー階に設置した「京急TIC 羽田空港国際線ターミナル駅」では、日・英・中・韓をはじめとした多言語に対応できるコンシェルジュが、乗車券の発売ほか、交通・観光案内などを行っており、2012年10月に日本政府観光局（JNTO）から最高ランクとなるカテゴリー3の認定を受けました。また「手ぶら観光サービス」や「MICEサポート業務」「宿泊・観光施設予約手配および発券」のサービスや、外貨両替カウンターを併設させるなど、ワンストップサービスの環境を整えています。



京急ツーリストインフォメーションセンター 品川駅

2018年4月には、品川駅高輪口改札横に「京急TIC 品川駅」を新設し、日・英の2言語対応を基本として、「京急TIC 羽田空港国際線ターミナル駅」と同様のサービスを提供しています。

■多言語サイトの改修

京急電鉄の多言語サイト「Haneda Airport Access Guide」にて、空港アクセス情報や沿線の最新情報などを発信しています。2017年11月には、スマートフォン対応ページの新設、経路検索機能を拡大し、検索結果に駅ナンバリングを表示できるようにしました。これからの訪日外国人のニーズにあわせて、随時サイトの整備や改修を実施していきます。



■京急グループ受入体制における英語研修の実施

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機に、品川・羽田を玄関口として訪れる外国人のお客さまが京急グループの交通・施設を安心してご利用いただける受入体制整備の一環として、京急電鉄本社社員、駅係員、乗務員、グループ会社社員に対して語学研修を実施し、ソフト面の充実を図っていきます。



■訪日外国人に向けたサービス強化施策として販売中のプリペイドSIMカード「KEIKYU TRAVEL SIM」

ますます増加する訪日外国人のSIMカード需要に対応し、より快適な日本滞在を迎えられるよう、訪日外国人旅行者向けプリペイドSIMカード「KEIKYU TRAVEL SIM」を2018年2月から発売しています。羽田空港を沿線に持つ京急電鉄のインバウンド対応強化の一環であり、京急グループが運営する羽田空港国際線ターミナル駅のセブン-イレブン、宿泊特化型ホテル「京急EXホテル」、「京急EXイン」の全館、羽田空港国際線ターミナル2階に自動販売機も設置したほか、2019年3月にオープンした「plat hostel keikyu asakusa karin」でも取り扱いを開始いたしました。



(左) 台紙デザイン
(右) 自動販売機

また、2019年9月には、みなとみらいに設置されたラグビーWC「Kanagawa Yokohama RUGBY FUN ZONE」のご案内などを封入したオリジナル仕様も販売いたしました。

■「KEIKYU-BUS FREE Wi-Fi」を提供

2018年4月から空港リムジンバス・アクアラインバス・深夜急行バス・中距離バス、および品川・横浜から各地を結ぶ夜間高速バス車内でフリーWi-Fiサービスの提供を開始しています。本サービスは、エヌ・ティ・ティ・ブロードバンドプラットフォーム（株）が提供しているスマートフォン向け認証アプリ（無料）「Japan Connected-free Wi-Fi」に対応しており、本サービスの利用登録をされたお客さまは、「KEIKYU-BUS FREE Wi-Fi」だけでなく、すでに「Japan Wi-Fi」に参画している他のエリア（日本全国の主要空港、主要駅、観光施設など）でも手軽な操作で簡単にフリーWi-Fiを利用できます。



利用可能な車両を示すエリアサインマーク

■鉄道事業者として日本で初めて「錯視サイン」を導入

国籍や年齢を問わずに効果のある“目の錯覚”を活用した「錯視サイン」を、鉄道事業者として日本で初めて、羽田空港国際線ターミナル駅に導入しました。立体的に見えるフロアシートを床面に設置することで、大きな荷物をお持ちのお客さまにエレベーター利用の促進をするとともに、エスカレーターからの手荷物落下事故の防止を図っています。言語に頼らない直感的な錯視サインは外国人旅行者にも有効で、導入後はエレベーター利用者が増加しています。



PR活動

沿線情報誌、WEBサイトやSNSなど、京急電鉄では、あらゆるメディア媒体を活用して京急の認知度向上に努めています。

■沿線情報誌（フリーペーパー）の発行

京急線各駅（泉岳寺駅を除く）では無料の沿線情報誌をお客さま向けに配布しています。約60年の歴史を持つ京急のまちマガジン「なぎさ」では、京急沿線の魅力やおすすめスポットなどを紹介しています。また、2018年4月に創刊した「MIULIKE（ミウライク）」は、「三浦半島へ。行く、見る、楽しむ。」をテーマに、三浦半島の豊かな自然と恵まれた資源の魅力や「海」というフィルターを通して発信し、とっておきの三浦（MIURA）の「いいね！（LIKE）」をお届けしていきます。



■京急電鉄マスコットキャラクター「けいきゅん®」

2011年羽田空港国際線ターミナル駅開業1周年を記念し誕生した、京急電鉄マスコットキャラクター「けいきゅん」。新1000形のボディーにつぶらな瞳の人気者です。京急沿線のぶらり散歩や、子どもと遊ぶのが大好き。2017年10月から期間限定で「けいきゅん号」の運行や京急の広報PR担当として沿線各地のイベントなどで活動したり、電車に設置されている車内ディスプレイや券売機でもご案内をしたりしています。2017年11月には、コミュニケーションアプリLINEで利用できる有料のクリエイターズスタンプが登場しました。



Twitter ID:@keikyunofficial URL:twitter.com/keikyunofficial
facebook www.facebook.com/keikyunofficial
LINE@ LINEの友だち検索「@keikyun」を検索



■駅メロディの導入

京急線の駅をご利用いただいているお客さまに一層の親近感を感じていただくとともに、駅周辺地域をPRするため、一部の駅の列車接近案内音として駅メロディを導入しています。列車が駅に接近すると、ホームに設置された列車接近案内装置から各駅にちなんだメロディが流れます。

実施駅名	使用楽曲(導入時期)
本線	
品川	赤い電車(2008年)
青物横丁	人生いろいろ(2008年)
立会川	草競馬(2009年)
平和島	いい湯だな(2009年)
京急蒲田	夢で逢えたら(2008年)
京急川崎	上を向いて歩こう(2008年)
生麦	ニューヨーク・ニューヨーク(2012年)
横浜	ブルーライトヨコハマ(2008年)
井土ヶ谷	さくら(2015年)
上大岡	夏色(2008年)
金沢文庫	MY HOME TOWN(2008年)
金沢八景	道(2008年)
追浜	熱き星たちよ(2018年)
横須賀中央	横須賀ストーリー(2008年)
堀ノ内	かもめが翔んだ日(2008年)

実施駅名	使用楽曲(導入時期)
浦賀	ゴジラのテーマ(2008年)
空港線	
羽田空港国際線ターミナル	世界に一つだけの花(2010~2015年) Dragon Night(2015年)
羽田空港国内線ターミナル	赤い電車(2008年)※駅開業10周年
大師線	
港町	港町十三番地(2013年)
逗子線	
新逗子	LIFE(2008年)
久里浜線	
京急久里浜	秋桜(2008年)
三浦海岸	岬めぐり(2017年)
三崎口	岬めぐり(2008~2017年) 城ヶ島の雨(2017年)

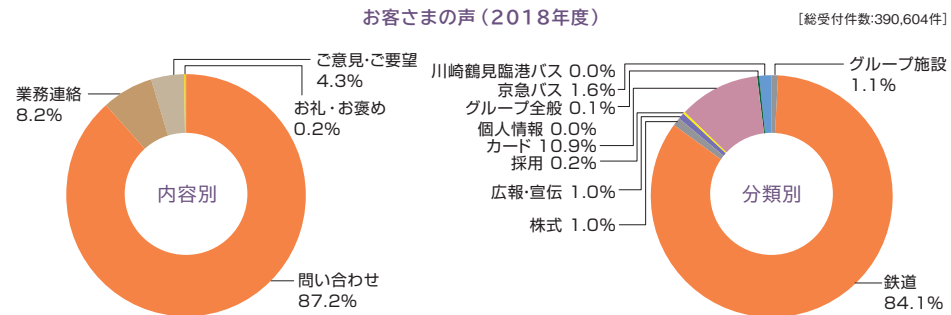
※ 2019年3月現在

CS活動

京急ご案内センターを中心に、お客さまとのコミュニケーションを図り、その声をサービスに生かす取り組みを行っています。

■京急ご案内センター

京急電鉄では、京急グループをより身近に感じていただけるよう、京急線の時刻や運賃、忘れ物のご案内はもちろん、京急グループのサービスや施設に関するお問い合わせ、ご意見・ご要望にお応えするため、「京急ご案内センター」を開設しています。



■お客さまの声に基づく改善事例

事例：エスカレーター使用のルール

ご意見

- ・エスカレーターは左側に立ち止まり、右側は歩く人のために空ける。いつからそうなってしまったのか。子ども連れで利用する時には非常に困る。
- ・エスカレーターで前の方がスーツケースを落とした。手を離さないように注意喚起してほしい。

対応

エスカレーターを歩くという暗黙のルールに対し、エスカレーターでは歩かず2列でご利用いただくよう、上の画像のように各駅エスカレーターに啓発ステッカーの設置を進めています。



■京急通訳サービス

羽田空港の国際化に伴い、2010年10月から、京急線各駅（泉岳寺駅を除く）および京急グループ各社で利用可能な「京急通訳サービス」を行っています。英語・中国語・韓国語に対応する専門オペレーターが、3者間通話により、お客さまとの会話を電話でサポートしています。複雑で多岐にわたる質問にも、京急通訳サービスを利用することで、お客さまとのコミュニケーションが円滑になり、迅速かつ正確な対応が可能になります。これからも、海外からのお客さまが、より安心して京急グループの交通機関や施設を利用できるようなサービスを提供するとともに、お客さまのニーズをサービス向上に反映できるよう、取り組みの検証を進めていきます。

京急ご案内センター ハロー・ハロー

TEL 03-5789-8686
または **TEL 045-441-0999**

受付時間 / 平日9:00~19:00
土・日・祝日9:00~17:00

※営業時間は変更になる場合がございます。



株主・投資家への取り組み IR活動

京急グループでは、透明性の高い経営の実現に向けて、適時・適切な情報開示に努めるとともに、IR活動の強化に取り組んでいます。

株主・投資家とのコミュニケーション

■情報開示

京急グループでは、法令などに基づき、重要情報を適時・適切に開示しています。また、WEBサイトのIRページにおいて、月次営業成績のほか、決算短信、決算補足説明資料や有価証券報告書、ファクトブック、株主総会や投資家向け会社説明会で用いた資料や動画を公開するなど、株主・投資家への情報開示に努めています。



当社WEBサイト「IRライブラリー」

■株主総会

毎年500名ほどの株主の皆さまにご出席いただき、1年間の事業内容をご報告し、映像やナレーションを用いてわかりやすく報告しています。また、質疑応答を通じ、株主の皆さまとの対話の充実に努めています。さらに、議決権行使の円滑化を図るため、招集通知を発送に先立ちWEB上で早期開示しています。



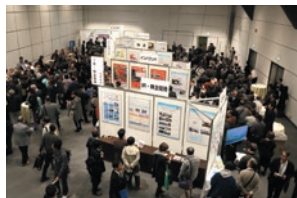
定時株主総会

■投資家向け会社説明会

京急グループの経営方針や成長戦略、株式や株主優待制度などを、より多くの皆さまにご理解いただき、投資の参考としていただくため、機関投資家・個人投資家向け会社説明会を定期的に開催しています。



機関投資家向け会社説明会



個人投資家向け会社説明会

■IRイベントへの参加

個人投資家の皆さまに、京急グループの成長戦略や当社株式の魅力などをご理解いただき、投資のご参考としていただくため、さまざまなIRイベントや説明会に参加し、積極的なIR活動に努めています。



日経IRフェア(説明会)



東証IRフェスタ(社長講演)

■株主向け施設見学会

株主の皆さまに京急グループの事業について理解を深めていただくため、定期的に株主向けの施設見学会を開催しています。2018年度は、京急創立120周年記念として「京急発祥の地を巡る川崎大師見学ツアー」「KEIKYU OPEN TOP BUSと京急油壺マリンパークを巡る三浦半島の魅力をたっぷり感じるツアー」の2回を開催しました。



「京急発祥の地を巡る川崎大師見学ツアー」の様子



「KEIKYU OPEN TOP BUSと京急油壺マリンパークを巡る三浦半島の魅力をたっぷり感じるツアー」の様子

■株主優待のご案内

京急グループ施設株主優待割引券のほか、株式数に応じて電車・バス全線きっぷやホテル宿泊券等が選択できる株主優待制度を設けています。

ご所有株式数	基準日	電車・バス全線きっぷ	京急EXホテル・京急EXイン 無料宿泊券(シングル)	電車全線バス	バス全線バス
100株以上 200株未満	9月末	-	-	-	-
	3月末	2枚	-	-	-
200株以上 500株未満	9月末	2枚	-	-	-
	3月末	2枚	-	-	-
500株以上 1,500株未満	9月末	4枚	-	-	-
	3月末	4枚	-	-	-
1,500株以上 2,500株未満	9月末	8枚	-	-	-
	3月末	8枚	-	-	-

ご所有株式数		いずれか1つ選択	いずれか1つ選択	電車・バス全線きっぷ	さらに3年以上継続の場合
2,500株以上 5,000株未満	9月末	15枚	1枚	-	-
	3月末	15枚	1枚	-	-
5,000株以上 10,000株未満	9月末	30枚	2枚	-	-
	3月末	30枚	2枚	-	-
10,000株以上 15,000株未満	9月末	60枚	4枚	-	-
	3月末	60枚	4枚	-	-

ご所有株式数	半期に	ご所有株式数	半期に
100株以上 500株未満	2枚	100株以上 500株未満	5枚
500株以上	4枚	500株以上	10枚

スタンダードプランから	5%割引 (1回1,000円以上(税別)のお買い上げで利用可能)
1,000円割引	

電車・バス全線きっぷ	さらに3年以上継続の場合
15枚	15枚
15枚	15枚
15枚	15枚
15枚	15枚
15枚	15枚

※電車・バス全線きっぷは、京急電鉄全線および京急グループ(京浜急行バス、川崎鶴見臨港バス)の一般路線バス全線にご乗車いただけます。(空港リムジンバスは、横浜駅(YCAT)・横浜駅西口~羽田空港線のみご利用になれます。)

※株主優待の詳細は、京急電鉄WEBサイトをご覧ください。